

1. 事業の位置付け

事務事業名	子どもの家おはなし会事業		
事業担当	健康・こども部 青少年課		
予算科目	00-xxxxxx-xx0000	事業種類	○ ハード ● ソフト
総合計画の位置付け	01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	01	①〈人間力〉 一人一人の心のやさしさ、学ぶ意欲、生きる力をはぐくむ	
	04	4 子ども時代に生きる力を身につける環境をつくる	
根拠法令等			
対象・受益者	未就学児・小学生	事業期間	
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： ボランティア団体 】		
目的・目標		事業の概要	
子どもたちに読書を楽しむ気持ちを芽生えさせ、想像する力・考える力をはぐくむとともに、青少年育成ボランティアの普及や異世代間の交流が深まることで、効果の高い健全育成が実現しています。		子どもたちが絵本にふれあい、読書に興味を持つ機会をつくるため、ボランティア団体と協力して子どもの家でおはなし会を開催します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	おはなし会開催回数						単位	回
	説明・算定式	-							
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
	目標実績			24	30	30			
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
	目標実績								
成果指標①	指標名	おはなし会参加者数						単位	人
	説明・算定式	-							
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
	目標実績			120	200	200			
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
	目標実績								
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成19年度の主な取組と成果									
以前から実施していた大野子どもの家・みなと子どもの家に加え、平成19年度から新たに山城子どもの家でもおはなし会を実施したため、開催数・参加人数とも大幅に増加した。									
平成19年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価		
	必要性	<input type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input checked="" type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	活動拠点を子どもの家としていること、また読み手のボランティアは青少年会館が主催する読み聞かせ教室の修了生であり、読み聞かせの実践の場にもなっていることから、市の関与が必要となっている。 読書は知的活動の基本であり、読書に興味を持ってもらうことは青少年健全育成の上で有効である。また読み手と子どもたちとの交流も異世代間のつながりが薄れた今日では貴重であり、弛まない事業の継続が求められる。 ゼロ予算で、市民のボランティア活動を主体として実施している事業である。活動場所の提供や事務的な連絡調整、及びサークル活動のサポートのみを行政側が担当していることから、妥当性は高い。 運営コストとしては職員の人件費と若干の事務費程度であり、また、市民ボランティアの活用を主眼においた事業でもあるため、現状でも十分な効率性がある。

今後に向けた課題の分析

市内に4館ある子どもを家のうち、横内子ども家では未実施となっている。読み手は、青少年会館主催事業でボランティア養成事業「読み聞かせ教室」の修了者で結成される「絵本を楽しむ会」の会員であり、今後会員の増加状況を見ながら、横内子ども家での実施も視野に入れたい。

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成17年度 決算額	平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 予算額	平成21年度 計画額	平成22年度 計画額	平成23年度 計画額
事業内容				おはなし会の開催	おはなし会の開催	おはなし会の開催		
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	0	0	0	0	0	0
事業費 (A)		0	0	0	0	0	0	0
執行率 (%)		0.00	0.00	0.00				
内訳	職員 (人)	0.00	0.00	0.20	0.20	0.20	0.00	0.00
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	0	1,679	1,679	1,679	0	0
フルコスト (A+B)		0	0	1,679	1,679	1,679	0	0

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成21年度の事業の方向性

○現状の規模で継続 ●拡大して継続 ○縮小して継続 ○廃止 ○休止 ○終了 ○他事業と統合

<判断理由>

青少年会館主催事業の「読み聞かせ教室」を継続して実施し、市民ボランティアの育成及び拡充を進める。

平成21年度の実行方針

横内子ども家での実施に向けて準備し、可能であれば事業を導入する。

課長コメント

青少年会館の自主事業であるボランティア養成講習の読み聞かせ入門講座を充実させ、修了者の理解と協力をいただき、この事業を更に拡大していきたい。